

〔はじめに〕

2016 (H28) 年春に「#保育園落ちたの私だ!」というハッシュタグが日本中を駆け巡り、保育園の待機児問題が社会問題となってから 10 年が経ちました。練馬区は、数百人規模の待機児解消のため認可保育所や地域型保育事業 (小規模保育所や保育ママ) で定員を増やし、2021 (R3) 年度から 5 年連続で「待機児童ゼロ」を達成したと宣言してきました。しかし、この数字には保育利用 (入園)「保留通知」を受け取って育休を延長した世帯、「1 歳児 1 年保育」「2 歳児 1 年保育」と 1 年ごとの不安定な細切れ保育を余儀なくされた世帯、自宅周辺の定員に空きがある施設を希望しない世帯などは数えられていません。「保育園に入れない」子どもたちの存在を覆い隠しています。一方、練馬区は区民の大切な公共財である区立「谷原保育園」を 2026 (R8) 年度 (2027 (R9) 年 3 月) に廃園する計画を進め、新入園児の受け入れを停止しました。その代わりに「1 歳児 1 年保育」20 名、「2 歳児 1 年保育」5 名の募集を開始し、周辺地域で入園を希望する保護者からは怒りの声が上がっています。2026 年 4 月現在、練馬区の発表資料によると、入園申請者数、待機児童数は増加傾向であり、認可保育施設の増設が求められていることは明らかです。

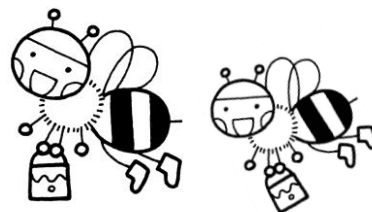
2023 (R5) 年、国はこども基本法を施行しました。東京都は 2021 (R3) 年にこども基本条例を施行しています。子ども優先の施策を進めることは子どもの権利条約だけでなく、法的に定められた時代になりました。子どもと保護者の立場に立って声を上げていく父母連の役割はますます大きくなっています。

練馬父母連 (練馬区保育園父母連合会) は、保育を必要とする子どもが通う区内保育施設において、子どもたちの最善の利益を守り、保育環境の充実を願う保護者の声の実現をめざして活動しています。「保育料の完全無償化」を長く訴え、2019 (R1) 年 10 月から幼児保育の無償化、2023 (R5) 年 10 月から第 2 子以降の保育料の無償化 (所得制限なし)、そして 2025 (R7) 年 9 月から第 1 子からの保育料の完全無償化を実現する力となりました。新型コロナウイルスの拡大が 2020 (R2) 年以來続く中、検温器の全園設置や委託園・民間園の保育士への奨励金の支給を区内の他保育団体と共に実現させてきました。看護師・栄養士の全園配置を求める活動にも粘り強く取り組んでいます。同時に、コロナ禍で各園の父母会の行事開催や保護者間の交流・活動が停滞し、その後も父母会活動が再興できないまま困難に直面している状況もあります。そうしたなかでも、保護者同士でつながり、すべての子どもたちが健やかに育つことのできる練馬区にするため、活動を続けています。今年度の諸活動を振り返りつつ、今後の活動方針を提案します。

1. 2025 年度の活動を振り返って

〔2025 年度の主な活動〕

- ・ 6 月 8 日 (日) 父母連総会
- ・ 7 月 9 日 (水) 練馬区保育計画調整課長と懇談会
- ・ 7 月 20 日 (日) 「親子で聴こう! ピアノとソプラノ」(親子イベント)





- ・9月14日(日)先輩パパママによる保育園入園説明会(前編)(共催)
- ・10月11日(土)先輩パパママによる保育園入園説明会(後編)(共催)
- ・12月7日(日)連絡会議(各園交流会)
「民間委託・民営化と谷原保育園の閉園計画の現在地」
- ・2月8日(日)親子リズム運動(親子イベント)(大雪で中止)
- ・3月26日(木)練馬区保育計画調整課と谷原保育園について懇談

〔10の柱の活動〕

(1) 各園の枠を越えて、各園の父母会・保護者の情報を交換し、意見交流、学習を行った。

総会や連絡会議での懇談を通じて、各父母会の行事、保育環境、廃園問題、委託問題、看護師・栄養士の配置等について情報交換を行った。個別の園の枠を越えて、保護者の共通する願いや声を掲げ、保育の質の向上と子育て支援策の充実を求める活動に、陳情署名などを通して父母連として取り組んだ。また、各園の保護者が取り組む保育環境の改善等の要求について、情報を収集し、他園父母会の力を集めるなど協力・共同の関係を築いて支援した。保護者の切実な要望に応じて活動することは父母連の大事な役割である。この間、父母連に園での事故とその対応についての相談が寄せられて区の担当課長との話し合いの場を設定するなど、保護者の声に応えた活動にも取り組んだ。

12月7日に父母連の連絡会議を「民間委託・民営化と谷原保育園の閉園計画の現在地」と題して、シンポジウム形式で開催した。報告は①「保育園の民間委託・民営化の現状」、②「保育園だけでなく民間委託・民営化。背景にある公共施設等総合管理計画」、③「谷原保育園の現状について」の3報告を父母連役員と谷原保育園保護者が行い、国と区の施策のもとで進む閉園問題を掘り下げた。

(2) 谷原保育園の閉園計画に対して保育園児と保護者を守る立場で反対した。

2021(R3)年11月に区が突然通告した谷原保育園の閉園計画とその後の区への対応は、計画策定の経過説明と計画中止を求める保護者の要望を幾重に無視する乱暴なものだった。父母連は、子どもの発達保障に重大な影響を及ぼす人権問題として、閉園計画の撤回を求めて取り組んだ。区との懇談、谷原保育園保護者と保育計画調整課との懇談、区長、区議会への働きかけなどを、区内の保育関係諸団体と協力して行った。また、当該園の園児とその保護者の願いに寄り添い、その願いを実現できるよう支援した。

(3) 区立保育園の民間委託化につづき、民間委託園の民営化を進める区にたいし、「公的保育を守れ」の声を上げた。

民間委託問題や栄養士・看護師の全園配置の要望など各園で抱える問題について、学習会や陳情署名活動を通して取り組んだ。民間委託の疑問点や問題点について繰り返し区に説明を求めた。父母連は委託対象園の保護者を支援し、区との懇談の機会に民間委託化の問題点を繰り返し指摘した。

(4) SNSの活用など、情報発信をすすめた。ホームページについては、経費の問題を含め、今後の扱いを引き続き検討した。

情報発信のためにウェブサイトやメーリングリスト、「X」(旧ツイッター)などソーシャルメディアを活用したが、父母連活動の担い手が不足していることから、その頻度について

は課題を残した。役員間の情報交流のため、主に LINE と Zoom を活用した。ホームページでの情報発信も続けているが、維持・運営費の問題が引き続き検討事項となっている。2025 年 11 月に父母連ニュース No.61 を発行した。

(5) 父母連参加の意義を伝え、父母連への加盟と参加を推進した。

機会をとらえて、各園保護者に父母連参加を呼びかけた。2020 年以降、コロナ禍で各園の父母会行事や保護者間の交流・活動の中止が相次ぎ、その後も父母会の活動休止や父母連から離れる父母会が生まれている。一方、保護者同士でつながりたい、子どもたちの健やかな保育環境をつくるための情報がほしいと願う保護者も多く、父母連の活動の意義の伝え方も工夫が求められている。

(6) 保育園の入園を希望する保護者への情報提供に協力した。

9 月（前編）、10 月（後編）に練馬保問協（練馬区保育問題協議会）と共催で、「先輩パパママによる保育園入園説明会」を開催し、入園を希望する保護者に体験談を語り、情報提供を行った。待機児童解消と保育の質の向上のため、区立谷原保育園の閉園反対、認可保育園の増設、保育職員の処遇改善などを区に求めた。

(7) 保護者間の情報交換と活動推進を支えるために、父母連役員への参加と協力を呼びかけた。

(8) 父母連の財政難を打開するためのカンパをよびかけた。

(9) 親子で楽しめるイベントを開催した。

ねりま遊遊スクール事業の委託で、7 月「親子で聴こう！ピアノとソプラノ」（参加者 57 名＋出演者 2 名）（2 月「リズム運動」（大雪で中止））を企画し、多くの親子が参加した。

(10) 練馬保問協、公保連など、区内の保育関係諸団体との交流・連携・協力を進めた。

保護者の声を行政に届けるため、「練馬区保育問題協議会（練馬保問協）」、「公的保育を守る練馬連絡会（公保連）」に参加し、練馬区内の保育園を取り巻く状況についての情報交換や要請行動、学習や企画をともにすすめてきた。「先輩パパママによる入園説明会」や区への要請活動など多岐に渡り協力して行った。



II. 2026 年度の活動方針

コロナ禍で停滞した父母会活動、保護者間の交流をどう進めるか、また各父母会の加盟によって支えられている父母連の活動をどう進めるか、財政的な検討も含めて、腰を据えた議論が必要になっている。2026 年度は、次の 7 つの柱を基本方針として活動を行う。

〔7 の柱の活動〕

1. 各父母会活動、各保育園の情報交換を行い、父母会間・保護者間の交流を深め、保育の充実と保育の質の向上をめざす。

2. 保育に関する情報を発信し、保問協、公保連など、区内の保育関係諸団体と連携しながら子育て、保育の充実をめざす。
3. 民間委託、民営化に関する情報を共有し、区や区議会に要望を提出していく。
4. 保育園への入園を希望する保護者への情報提供と、待機児解消にむけた認可保育園の増設・拡充、とりわけ保育の質の向上をもとめていく。
5. 谷原保育園の閉園計画に対して保育園児と保護者を守る立場から声を上げていく。
6. 親子で一緒に参加できるイベントの開催を願う保護者の要望に応えるため、親子で楽しめるイベントを企画する。
7. 父母連活動の担い手の不足の解消、財政難の打開を図る。

★【参考】これまでも父母連は園児と保護者の多くの願いを実現してきました（一例を以下に紹介）。

- ・ 2階施設の保育士削減計画に反対するため民放テレビに出演して、保護者の声を訴えた。
- ・ 保育料の値上げ計画に陳情を提出し、値上げの減額を実現した。
- ・ 東日本大震災直後に全園の耐震検査の実施、コロナ感染症対策を区に求めた。
- ・ 新型コロナウイルス感染を受け、全園に検温器を設置させた。委託園・民間保育園の保育士に奨励金の支給を実現させた。

・ 全園に看護師と栄養士の配置を求めてきた。家庭的保育施設での給食を実現させた。
☆その他、多数。

父母連は、ひきつづき園児と保護者の願いにこたえるための活動をすすめていきます。



III. 2025 年度決算報告、 2026 年度予算案 （別紙）

<付録>

- ・ 練馬区保育園父母連合会会則
- ・ 保育園一覧マップ